



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

2024日音協セミナー開催 秘められた「ノビシロ」が続々と

ステージスタッフは経験値の積み重ねが大事。歌と演奏を充実させ、表現力を向上するには発声や演奏などがステージで映えることが大事。この二つのテーマに取り組み、成果発表では演者となった各ユニットの演奏とステージスタッフが合流して、本番を意識した模擬コンサートを行い舞台の入れ替えや音響機材の操作、音質の調整などに取り組んだ2024日音協セミナーの報告です。

2月10・12日の2泊3日の日程で、北は北海道旭川、南は滋賀県から15人が参加して神奈川県相模原市にある藤野芸術の家で開催しました。

講師には音楽祭の音響を数多く担っていた日下昇さんとプロの歌い手で作詞・作曲を手掛け、ボイストレーナーでもある小笠原もずくさんを招き、模擬の音楽祭をイメージして、歌と演奏とステージワークを学びました。(後藤雅裕)

【日下昇さんの講演】

①「舞台を作るのは総合力」

舞台を作るということでは、演者と舞台・音響・照明などの役割があるが、イベントとして成功させるには、企画・構成・演出・宣伝・渉外・舞台装飾などなど演者よりも多くのスタッフが必要なので舞台づくりの上では総合力の善し悪しが舞台の出来を決める。

②「作品のテーマにもっと迫れ」

作品づくりでは、作品のテーマへの迫り方が弱いという指摘は、ズギューンと射貫かれた気がした。ウクライナへのロシア軍事侵攻やイスラエルのパレスチナに対するホロコーストにしても今起きている事象だけでなく背景にある歴史やこの戦争で苦しめられている人々の様子や前線で重火器やミサイルやドローンで闘い死傷する兵士の思い、この戦争が私たちにどんな影響をもたらしのかなどを考察して作品に反映させ仕上げる努力は大変だけど絶え間なく続けなければと感じた。

③「ステージワークとりわけ音響の仕事は、トラブルがあつて当たり前」

起きたトラブルを瞬時に冷静に解決して舞台の進行に差し障りを来さないのが音響の仕事の一番大事なこと。何喰わぬ顔をして周りを不安にしないためには経験の蓄積が大事だ。

④「著作権の扱いを検討すべき」

JASRAC(日本音楽著作権協会)に登録しているから著作権があるのだから、著作権の使用料を代理で徴収しているに過ぎない。著作権は作者にある。日音協でも毎年新たな作品がつくられ歌われている。ネット配信・各支部やユニットのライブ、集会や路上演奏など音楽

現場が労組や日音協会員を対象の活動から、より広範なエリアで歌を広める努力も芽生えていることから日音協が扱う作品の著作権については改めて検討することも在りと感じた。

⑤「他流試合をしない」

内向きの音楽現場に甘んじるなどということ、他の音楽団体のコンサートに出演したりして、自らの歌と演奏を高めていく努力も必要だ。確かに、日音協は労働運動から生み出された音楽運動ですが、その音楽運動のテーマを以てどのように労働運動に貢献するかが課題だ。武器としての私たちの歌と演奏をどうやって鍛えるのかは大きな課題です。

【歌と演奏コース】

最初に全体で発声の指導を受け、体のストレッチ・首筋・喉周りの筋肉のストレッチ、腹式呼吸、あくびの発声(あえいおう)、のどぼとけを上・下に自由自在に動かす、声帯を緊張させない発声、口のなかのどこに声を充てるかという声になるかなどなどを指導していただきました。

私たちの音楽活動も人前で歌うことが基本ですから、しっかりとした声に思いを乗せて表現することが大事です。が、長年の間にしみ込んだ癖があったり、練習不足や演奏の機会に恵まれないところもあるので、意外にも歌っていない時間の方が

長くなっているかもしれない。しっかりとした声で歌を届けるために、そして歌と演奏に関心が集まるようにいい声・聴きやすい声をつくる努力も必要だと改めて感じた(毎回感じているが...)。

参加者によるユニットは、①おだかずやさんと高橋円さん、②田中珠萌さんと高橋円さん、③上村一郎さんと塚本昇さん(ローカル線)、④高野直美さん・佐藤茂伸さんに松本さん後藤さんを加えた「直茂敏裕」の4つ。ユニット毎に小笠原トレーナーから、歌い方・演奏のアレンジなど巡回してプロ目線からのアドバイスをいただき、参加者一同秘められたノビシロを感じていると思います。

【オープンコンサート】

施設の宿泊者にもコンサートを告知したところ、家族連れが会場に参加してくれました。司会進行を根本幹事が担当し、出演は、Mato、Reo、おだかずや、ローカル線+佐藤茂伸、Dagiesの各ユニットでした。

【オープンマイクホン】

司会も進行もなく、15分の持ち時間内で出演者が自由に演奏する「Live House」での演奏をイメージした取り組みです。ジャイアン・鳴澤・Reo・ローカル線・田中珠萌さんの子どもたち・おだかずやの各ユニットが出演しました。

【関連写真は2面に掲載】

実践や経験を積み重ねて裏方として役に立ちたい!



Piggies (松本+坂口) の演奏の準備をするスタッフ

■参加数も少なかったこともあって、その都度質問や確認が出来たことが良かった。音楽祭の舞台転換などのシーンを想像しながらの作業も有意義であった。今回の講師をしていただきまた日下さんの知識や技術を沢山吸収したいと思いつつ、想像していた以上に吸収できなかったことが悔やまれる。ステージスタッフに関する資料があるのと良かった。失敗談の意見交換の場も欲しいと思った。音楽祭では舞台監督、照明、音響、ステージスタッフなど進行に関わる担当がありますが、今一度作業範囲や内容など相互的な討論や確認が必要ではないのだろうか?と思います。

〈吉野浩昭〉

■今回改めて感じたことは、各担当のリーダーとなった人には、ある意味の思い切りと信念が必要。その思い切りのためには、綿密な準備と学習が必要だということ。安全に気をつかい、危険だったり、絶対やってはいけないこと以外は、やるようになったら揺るがず、ビシッと言い切れる自信が必要なんだと思います。

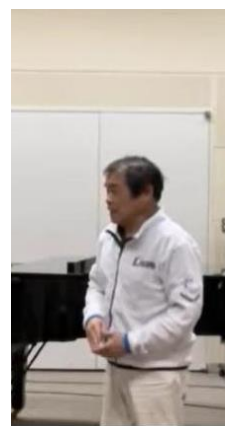
〈古谷昌代〉

■非常に有意義で勉強になるセミナーだった。今回は、スピーカー、ミキサー、パワーアンプを持参した。機材の組み立て、出力配線方法、具体的な音出しでの、ハウリング点の見出し方法など本当に勉強になった。耳を良くしてその経験と勘を研ぎ澄まし、現場での経験が必要であると、実感した。次回このような講座が開催されるのであれば、事前準備と、自分の機材、特にマイクケーブル・スピーカーケーブルなど、必要なものをシミュレーションしてそろえる必要がある。さらに言えば、演者さんに安心して演奏してもらえ、状況をしっかり作り出さなければならぬと思う。

〈鳴澤庸夫〉

■日下さんから「舞台を支える裏方は出演者よりも大人数で重要な役割」と言われ、舞台から客席にいる人たちに表現を正確に伝えるためのパイプ役であると思いました。三日目の成果発表の最後の舞台配置は出演者多数のためかなり混乱してしまいましたが、何よりも実践や経験を積み重ねて裏方として役に立てるようにしたいという思いを決意しました。

〈根本賢治〉



おだかすや

■日音協外のライブに行くと、自分たちで機材を準備したり音を調整しているのを見る。私も自分でできるようになりたいと思ってスタッフコースを受講した。しかし用語がわからない。尋ねると答えてもらえるのだが、その答えも理解が追いつかない。アタマはフル回転でヘロヘロになった。電流とか信号とか、基本が全くわかっていないことを自覚した。本格的な調整卓を扱う機会はないだろうが、素人なりに『どんな音のために何ができるか』をもっと時間をかけて今後学びたいと思う。

〈森理子〉

■ステージスタッフコース担当幹事としての反省は多々。講師の日下さんから事前に「資料は無し、現物体験が大事!」との言葉に甘えて準備を怠ってしまったが、いま、何をやっているのか参加者の皆さんが迷子になっているような場面もあったので、せめてレジュメだけでも作っておくべきだったと反省。参加者の経験値に差があることは事前にわかっていただけたから、そこにももっと配慮すべきだった。ステージスタッフとしての基礎的な講座と、PA講座が同時進行となってしまうのも良くなかった。参加者から出ている指摘も含め、すべて次回のための反省材料としていきたい。

〈坂口美日〉



M.goto (後藤雅裕)



Rico (森理子)



上村一郎

塚本 昇

佐藤茂伸

富山県支部第50回総会開催



日音協富山県支部は、第50回定期総会を2月13日(火)午後6時30分より富山市・自治労とやま会館において、代議員(出席6+委任状7/14)、役員(8/11)の14人の出席、屋敷正人事務局長の進行で開催しました。

総会は、いつも雪で大荒れの天候が多かったけれど今年は異常に暑い日となりました。

開会に先立ち昨年お亡くなりになった又市征治さんや全国の音楽仲間、また今年元日に発生した「能登半島地震」で被災された県内外の方々へのお見舞いとお亡くなりになった方のご冥福を祈り黙とうを行いました。

開会の歌は昨年9月に亡くなった笠木博逸さん作の「私たちは許さない」を歌って開催し、鴨野会長挨拶で総会に入りました。

当日は、来賓としてご出席いただいた連合富山の大西吉史事務局長と富山県平和運動センター三善康教議長から連帯と激励のご挨拶をいただきました。

また、立憲民主党富山県総支部連合会と社民党富山県連合会からのメッセージをいただき日音協中央からのメッセージを読み上げて紹介しました。

議事は、2023年度活動経過報告・総括や決算報告・会計監査報告、2024年度方針(案)・予算(案)を一括提案し、質疑討論しました。

出席者からは、活動の報告や県支部活動への意見などの発言がありました。

主な活動である「第55回音楽祭(沖縄県開催)」や積極的に演奏活動を進めるなどの方針、新年度役員体制も含め議事のすべてが承認され、退任の布瀬会計監査からの挨拶の後、総会を終了しました。

今後も引き続き、構成団体、会員、機関紙購読者など県内の皆様のご協力をお願いします。新年度役員は下記のとおりです。(磯野友一)

【2024年度役員体制】

会長	鴨野 浩一	(自治労)
副会長	相澤 誠	(県教組)
〃	篠島 良幸	(農協労)
事務局長	磯野 友一	(自治労)
事務局次長	大門 悟	(ししの子)
〃	中田 信男	(ししの子)
〃	屋敷 正人	(CAM)
〃	平井 義信	(CAM)
〃	加藤 葉子	(CAM)
会計監査	久保田 誠	(富山地鉄労組)
〃	門廻 宏昭	(県教組) 新



2月12日(月・休)、「9条をまもり憲法をいかにす富山県民の会 第20回定期総会」が、自治労とやま会館において開催されました。

日音協富山県支部は、開会前段に「私は忘れない」「私たちは許さない」「決意」を歌いました。

また、3月9日(土)には「さようなら原発3・9富山集会」(ボルファートとやま)で歌う予定です。(磯野友一)

◆沖縄音楽祭終了後、「南部戦跡ツアー」のご案内 9月22日泊〜23日16時 那覇(那覇市内)空港解散 費用8,000円(宿泊代、車代)定員45名(参加者により費用変動あり) <ツアー責任者 松本敏之>
◆今年の沖縄平和行進は、5月17日(金)〜18日(土)に変更となりました。沖縄行動日程も準じます。

No Nukesライブ2024 Fukushima

3月10日(日)

郡山中央図書館 3F
視聴覚ホール
開場 13時半〜
開演 14時〜

●クラウドファンディングのご支援をお願いします。詳細は右記QRコード下記URLからご確認ください。
https://readyfor.jp/projects/311nonukes_fukushima

●カンパ協力をお願いします。
[カンパ金振込口座]
東北労働金庫郡山支店
口座番号: 6636187
口座名義: 3・11福島ライブ企画
問い合わせ
090-4317-3999(高山)
090-7945-6400(坂口)

プログラム
I部 14時〜
IN THE WIND(インザウィンド)
おも
嵯峨浩児(いざなりこうじ)
II部 15時40分〜
井上美和子・キングライヴ

III部 16時50分〜
日本音楽協議会福島県支部
関ジョニーと愉快な仲間たち
プレス 〆みんなで歌おう!

井上美和子さんのプロフィール
文筆家、福島県立町生まれ。2人の子の母。
2011年3月12日に南相馬の自宅から京都府綾部市へ避難。
2019年秋京都で井上美和子・朗読「ぼんじり」初演。
以来、東京・熊本・岡山・仙台・横浜・長野各地で上演。
代表作「豆を煮る」「豆の湯」「告白」「あひまえ」他。
2022年キョウゴレー音源制作委員会メンバー編「ず、ドキュメント〜もやい・福島に吹く風〜」内ではナレーションも務めている。

演奏者プロフィール

IN THE WIND(インザウィンド)
県内に多くのファンを持つ夫婦デュオ。
夫の第一さんは、前フォーエヴァー協会会長を務めて20年。妻の第二さんが書いた曲も数知れず。「赤トビ」は今も聴衆の心をえぐる珠玉の演奏。

おも
独特の世界観を奏でるギター弾き語り、今やテレビCMで流れるほど。時にはバンド構成でのステージもあり、これからの活躍が期待されているアーティスト。
嵯峨浩児(いざなりこうじ)
若い頃はババの湖南ボーイズ。縁あって郡山に土着。東北でも一番のフォーク会場655をオープンで、幅広い聴衆を魅了。ビートルズを愛し、毎年12月のレノン掛けこソサエツは著名。

プレス
福島市の庭後地区で、「みんなで歌おう」と活動しているグループ。日曜毎に街の一角で演奏と歌で満たされる。リーダーN君の情熱が、集まった人を元気にします。

関ジョニーと愉快な仲間たち
NPO法人ライヴアゲを運営する関さんを中心に、ライヴアゲが企画するイベントや、さまざまな事業から声がかかり、歌声サロンを開催しています。

日音協福島県支部
日本音楽協議会(日音協)に所属する、福島のメンバーで構成。男唄の歌、平和の歌、そして反原発の歌など、多岐のジャンル曲を歌い、集会やイベントで演奏しています。作品集もあります。

No Nukes Fukushima 3.11を歌う!

川口幸美
秋・花
3月11日(月)
会場 Kouriyama 9(シャープ・ファイン)
郡山市本町1丁目4-1(5分歩)または
TEL 024-257-5242(チケット予約可)
入場料 3,000円(311ライブ参加者)

●クラウドファンディングのご支援をお願いします。詳細は下記URLまたはQRコードからご確認ください。
https://readyfor.jp/projects/311nonukes_fukushima
●カンパ協力をお願いします。
振り込み先
東北労働金庫郡山支店 口座番号 6636187
口座名義 3・11福島ライブ企画
主催 3・11福島支援を促す会(311ライブ実行委員会) <https://nonukesfukushima.wixsite.com/no-nukes>
問合せ先: 090-7945-6400(坂口)

福島でライブ(報告は4月号で)

クラウドファンディング、または口座からのカンパ支援をよろしくをお願いします。(福島県支部 南條)

「南風(ふえーぬかじ)」⑤ 米軍圧政から日米安保条約へ、

自治は神話である

沖縄県支部 平良昌史

1945年4月1日に沖縄に上陸した米軍は、旧日本軍の3つの飛行場(現嘉手納基地等)を確保し、沖縄に鉄の暴風が吹き荒れた。戦争中から終戦後もアメリカは沖縄占領を続け、住民を収容所に強制隔離している間に、土地を接収し基地建設(普天間飛行場等)を開始し、故郷のすがたは消え広大な基地が建設された。朝鮮戦争の勃発、中国・ソ連との対抗から、1952年サンフランシスコ条約で本土の基地は縮小され代わりに、本土から切り捨てられた沖縄に、「銃剣とブルドーザー」といわれる強制接収で沖縄の基地は増設された。米兵による女性へのレイプ、殺人、ジェット戦闘機の墜落事故など基地被害と人権侵害を一顧だにせず、住民の怒りが、島ぐるみ闘争となり復帰闘争に発展した。1972年5月、悲願の日本復帰を果たしますが、平和憲法が適用されないフェンスの中の沖縄が残り、基地のない平和沖縄は実現していません。復帰から23年後の1995年、沖縄本島で3人のアメリカ兵が小学生の少女を拉致し、暴行する事件が起こった。沖縄の人々の怒りは、多すぎる基地の縮小を求める声として高まり、日米両政府は交渉の末、宜野湾市の中心にある海兵隊の普天間飛行場を全面返還することで合意、しかし、その代わりに新たにヘリ基地を沖縄県内に建設することが条件でした。新基地建設反対闘争の始まりです。日米安保条約を容認する日本人、基地を沖縄に押し付けても平気な日本人は、2013年「新基地建設反対」を訴える県民代表に対し「売国奴」等のヘイトスピーチを浴びせた。『危険性除去のために沖縄が負担しろ』と言う。反対すると『日本の安全保障はどう考えているのだ』と言う。故翁長知事、現玉城デニー知事の民意を背景にした抵抗に対し、自公政権は法律を都合のいい解釈で地方自治を否定し続けている。米軍の絶対権力者は「自治は神話である」と述べたが、それは今も続いている。



2015年に開催された沖縄県民大会



ウクライナに平和を! 2.24 青山集会&デモ

日音協はウクライナに平和を! 2.24 青山集会&デモ(2月24日、東京都港区)に参加、プレオープニングで歌い演奏したほか、デモ行進に出発する参加者をうたと演奏で送りだしました。

日音協会員と歌の仲間たち、あわせて11人が参加しました。

演奏したのは、坂口(MC・ボーカル・ハーモニカなど)、森(アコーディオン・VO)、高橋(カホン・VO)、後藤(ギター・VO)、松本(ベースギター・VO)の5人です。

演奏したのは「戦争なんかをするために」「これ以上海を」「あたりまえの地球」「Song for Gaza」「武器を捨てて」の5曲です。

集会には500名が結集しました。

(松本敏之)

—2024若い会員の交流会のお知らせ—

5月に長野市内で2024若い会員の交流会を開催します。

演奏を基本にした交流会で、参加者からの意向を踏まえた選曲で、自由な発想によりさまざまなアレンジを重ねて仕上げます。

まだ日音協会員になっていない

若い方たちの交流会への参加も大歓迎です。(昨年の様子)

詳細は、3月にお知らせします。自薦他薦は問いませんので(笑)、「若い」とお思いのみなさまからのご参加をお待ちしております。

■日程 2024年5月11日(土) 13:00~5月12日(日) 12:00

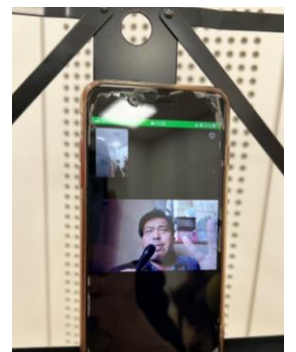
■会場 花みずき貸スタジオ(長野市穂保648-1)
長野駅から車で20分(約1.1km)

■宿泊先 長野駅周辺のビジネスホテル

■参加費 10,000円(1泊2日、朝食代を含む、宿泊なしの場合4,000円)
※参加費には夕食代を含みません。

1日目終了後の交流会は、任意参加(参加者実費負担)です。

■その他 40歳以下の日音協会員の参加は、自宅から会場までの往復交通費は、日音協が全額負担します。
(担当幹事・竹内 崇史)



スマホで参加の鳴澤さん

日音協長野県支部新春ライブ なんと4時間超え



唯一無二ゆ

2月3日、長野県支部新春ライブが開催されました。

長野県支部が普段からお世話になっているライブハウス「拓郎age」で、青森・新潟・栃木・東京などからの参加もありました。

ライブの様子はYouTubeで配信されましたが、終了の時間が分からなかった(私だけ?)ので、最後まで視聴した人が何人いたのか?不明です。

掲載した写真は、動画レコーダーで録画したもので静止画を取り出したものですので、鮮明でなく申し訳ありません。

皆さん、お酒も入り、楽しそうな雰囲気共有できました。画面を見ながら、一緒に呑めばよかったなと思いました。(佐藤)



朝陽バンド



若い会員の交流会



パールライス



大沢隆男



せな みゆう



リベンジのローカル線

＜沖縄の旅・旅費格安情報＞

9月21日(土)～22日(日)に予定している沖縄音楽祭に向けて、交通費が高くて躊躇しているという声を聞きます。そこで、格安情報をお知らせします。特に格安航空会社の格安チケットは残りが少なくなっています。お早めのご手配を。

【格安チケット】

格安航空会社(LCC)と言われる航空会社で、とくに成田空港と那覇空港の間の便を使い人気のない時間帯を選べば、片道1万円未満(木曜日成田発や水曜日那覇発など)や1万円台(金曜日成田発や火曜日那覇発など)で予約することができます。手荷物に重量制限があったり、キャンセルした際の払い戻しができないなど、航空会社によって制約がありますので、注意してください。

- Peach (ピーチ) <https://booking.flypeach.com/jp>
- Skymark (スカイマーク) <https://www.res.skymark.co.jp/reserve2/>
- ソラシドエア <https://www.solaseedair.jp/reservation/>
- Jetstar (ジェットスター) <https://www.jetstar.com/>

【格安宿(ゲストハウス)】

那覇市内の音楽祭会場近くのゲストハウスなら、1泊1,280円から4,600円で泊まれるところもあります。女性専用のゲストハウスもあります。

これら最安値の部屋はドミトリーと呼ばれる相部屋で、大抵の場合は2段ベッドです。値段は少し上がりますが個室もあります。食事もなく、タオル、パジャマもありません。HPや電話で情報を把握しての予約をお勧めします。

インターネット予約の苦手な方や不安のある方には、坂口副会長が可能な限り相談に乗りますので、お問い合わせください(090-7945-6400)。(松本)



飛び入りの鳴澤庸夫



甲屋文史

水道橋だより

▼東京新聞に掲載されました。▼「500回も歌っている人たちがいる」と上野さんが取材を要請してくれたことで今回の記事になりました。思った以上に大きな記事でびっくり。紙面全体の写真を添付します。ほぼ1/3を使っています。森が中心の書かれ方ではありますが誰でも参加できる、うたいたいのゆるやかな感じが読み取れます。そうやって、みんなでこの行動を作ってきたのですよね。ヨッシーや長島さんや清美さんは、人を誘い込むのが上手でした。頼りにしています。(森理子)



歌の力が物語るもの127

葉萁坂うた行動 2/2 (500回) 報告 R i c o

【参加者】松本、鈴木、上野、長島、スーさん、守屋、イサさん、かおるさん、周平さん、瓦井、坂口、加本、モッチー、達哉、森 計15名

500回だ。2012年9月に松本さん、坂口さん、長島さん、珠朗さん、そして今は亡きヨッシーの5人で始まった歌の行動。「祝！500回」とは言えない。原発政策が終わらないからだ。でも、歌い続けてきたことは誉めてもいいよね。というこで呼びかけたところ、久しぶりの仲間も含めて15名が集まった。

最近歌っている曲のほか、懐かしい曲も含めて歌詞カードを作った。500回を繋いだ歌も振り返りたいし、今現在歌っている歌も知ってほしい。などと欲張ったらすごい数になってしまった。最初は端から歌っていたが、全曲は難しそうで、リクエスト形式になっていった。上野さん、瓦井さん、加本さんの作品は多い。いつも歌っている歌も、作者の顔が見える。と一層リアルになる。紹介し、作者がマイクを握って歌う。スーさんの『怒りのこぶしを上げよう』、スーさんと瓦井さんの『双葉の秋』、加本さんの『そんな世界が一番』はずっと歌っている。『かあさんの歌』は久しぶりだ。上野さんの『あなたに届け』は私自身の行動の支

えになっている曲。それから久々の『葉萁坂賛歌』、国会周辺がにぎわっていたころを思い出す。

モッチーが到着したので「ろくでなし」をリクエスト。モッチーの声がよく似合う曲。これは福島の人々さんという方が替え歌をつくり、その歌詞カードが通りすがりの参加者から持ち込まれて歌うようになった。その後作者とはFBでつながり、代々木公園での『さようなら原発集会』に来た時、日音協のテント前コンサートで歌ってもらったつけ。人に歴史あり、歌に歴史あり。『D.O! 廃炉』は盛り上がった。この曲はコロナ前にしばらく歌い、少し間を置いていたけれど最近また歌っている。なかなか原発名が覚えられないけれど勢いがあって良い。

新しい歌も知ってほしい。感染症が流行り出して4年、仕事



実践的なアコ演奏の森さん

や家族の都合も重なり、葉萁坂に来られなくなった仲間も多かった。歌うメンバーもがらりと変わり、新たな歌も紹介されてきた。『水に流すな』『ああ福島』そして朝鮮学校無償化差別に反対する文科省前行動で歌われる『声よ集まれ歌となれ』これらの曲は、文科省前・経産省前の行動に参加している守屋さんが葉萁坂で紹介した。汚染水問題に絡めて旬の歌。そして『声よ集まれ』の歌詞、『それでも誰かと歌いたいんだ』ひとりの声では届かない『君と一緒なら たたかえる』には、葉萁坂は強く共感する。

鈴木さんが時間配分を気にして「そろそろ沖縄歌おうよ」と声をかけてくれる。『ふるさと沖縄』等を、沖縄を想って歌った。

みんなで歌うのは楽しい。1時間はあっという間に終わってしまった。最後は『原子力発電NO!』を元氣よく。これからも原発うたいたいは続いていく。来週は501回だ。

どん行

(176)

飯島貞親

人間を育てるためのものだったという。そして、生まれ育った村で暮らすという歌は一曲もないのと。

▼唱歌「ふるさと」が「君が代」に代わる国歌にふさわしいとの声がある。ウサギが駆ける里山、小鮒が泳ぐ川がある自然豊かな故郷を想い、父母や友人の無事を祈る心。「君が代」は思想統制がされた戦前の軍国主義の復古そのもので、歌う気になれない▼ところが、「内山節と読む世界と日本の古典50冊」(農山漁村文化協会)によると、この歌はふるさとを捨てる歌であるという。気持ちはいつもの故郷を想っており、最後に「いつの日か帰らん」とあるが故郷に帰って暮らすわけではない。ただ「立身出世しますよ」という歌だ。また、冒頭の「ウサギ追いしかの山」いう歌詞についても、日清戦争以降、日本は寒冷地での戦争に勝たなければならぬという状況に追い込まれたが、木綿でできた当時の軍服は暖かくないものだった。そこで襟につける毛皮が大量に必要になり、学校でもウサギの追い込み狩をやることになったという。ウサギを追ったのは、牧歌的な情景ではなく軍事産業からの要請だった▼内山氏によれば、「ふるさと」を含む文部省唱歌は明治期に入って、国家のために生きる人間を育てるためのものだったという。そして、生まれ育った村で暮らすという歌は一曲もないのと。